六田晴洋の

私たちのご近所さん



VOL.43 白糠でアメマスを探す ～先月号の続き～

アメマスは深い淵で雨を待ち、増水を利用しながら障害物を乗り越え、川をさかのぼります。上流部で産卵するといわれていますが、観察して意外だったのは、中流部にも産卵を直前に控えていそうなメスが複数いたことです。産卵は上流部だけとは限らないのかもしれません。ただ、川幅が広い中流部で特定の個体を追うことは困難でした。そこで、流れの細い上流部に狙いを絞りました。


茶路川の上流部

「上流部の難しさ」

上流部ならではの難しさもありました。

第一に、魚がのぼってくるまでに時間がかかること。何日待っても魚影さえ見つかりません。「そもそも、本当にここまでくるのか?中流部で撮る方法を探るべきでは?」。そんな迷いが日ごとに大きくなります。

第二に、山奥の険しい地形です。重い機材を担いで川に降りられる場所は限られるため、長い距離を歩かなければなりません。その途中には生々しいクマの足跡もありました。そんな中、安全かつアメマスが好みそうな場所をいくつか見つけ、そこに来ると信じて通い続けました。


急流の下で並ぶアメマスのペア

「ようやく現れたペア」

色づいた木々の葉が散り始めた頃、その光景は突然やってきました。急流が生む泡の下に隠れる、丸々太ったメスと、それに寄り添うオス。前日まではいなかった場所です。やっと来てくれたか!

「いつ頃産卵していただけそうでしょうか?」。オスは頻繁にメスに身を寄せ、ご機嫌をうかがっていました。それは私も同じ気持ち。

その時点で、アメマスの撮影に充てられる日数は、残りわずかだったのです。

結果的に、願いは届かずタイムアップ。産卵は間に合いませんでした。

しかし、繁殖が始まるまでアメマスがどこで何をしているのか、上流部に姿を現すのはいつ頃なのか。自分の足で探し、観察することで得た情報や経験は、来年につながる大きな収穫となりました。来年にご期待ください。

PROFILE



六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスの
カメラマンやディレクターとして
野生動物や自然風景を撮影している。
https://rokutaharuhiro.com